平成２７年度　上越市教育課程部　活動報告

部長　三田　吉夫

１　研究主題

特色ある学校づくりを進める教育課程の編成・実施

２　研究の概要

本部会では、今年度も上越カリキュラムの実践指定モデル校の取組に学びながら、自校の教育課程を見つめなおし、その改善に役立てていくことを目的とした。

両校ともに「学力向上」の取組ではあるが、一つは、今までの取組から成果の上がったことをまとめた発表である。もう一つは、学校の現状を把握し、今年度から取組を始めた学校の発表である。その違いにも着目しながら具体を学ぶよい機会となった。

３　研究の実際

・第１回小委員会　　　　８月　３日　富岡小学校　組織作り、研究テーマ、内容の協議

・教育課程部会研修会　１１月１１日　希望館　　　実践発表、質疑、学習指導要領の方向性

⑴　実践発表１　　上越市立宝田小学校

「学力向上に向けた言語活動の充実への取組」

〇宝田小学校「５つの取組」

・思考力を発揮させる学習過程の工夫
・「読むこと・書くこと」を中核とした言語活動
・温かくかかわり合う学習集団づくり
・家庭とつながった家庭学習の充実
・中学校とつながる家庭学習の充実

⑵　実践発表２　　上越市立三和中学校

「学校課題の解決に向けた上越カリキュラム　　～朋は近くに～」

〇学び合いと家庭学習のつながりを重視した全校体制での授業改善

・「ファシリテーションを核にした学び合い」をテーマとした授業改善
　学び合いの場を「構想・振り返りシート」により見える化、自校化を図る。
・Web配信問題の実施方向の変更
　「Webの日」を設定し、全職員で分担するとともに、家庭学習用学習材箱を設置する。
・三和中ネット学習の推進
　ＳＮＳ利用７割という生徒の実態を逆手にとり、教育YouTuberの授業動画を用いた家庭学習の推奨と利用環境を整備する。

４　成果と課題

宝田小学校は、算数科を中核にして学力向上に取り組んできた経緯がある。当校の実践の良さは、単純に算数科だけにとどまらず、学力を支える心の育ちや良好な人間関係の構築等にも視野を広げ、教育課程全体で学力向上を考えたことにある。

三和中学校は、県中学校教育研究会で掲げている学力向上の取組を自校化して実践を始めた。学校全体としての方向性や取組内容の共有をどのように進め、職員の意識改革も含めて、実践を通してその意味や価値を導き出そうとしている。取組途上であるが故の悩みや問題を含めて現在進行中の実践からは、リアルに学校の現状が見えてくる。

教育課程は、その編成と確かな実践、評価・改善を繰り返していくことが、結果として特色ある学校づくりにつながっていく。

この度の貴重な両校の実践発表には、教育課程部員の多くを占める教頭や教務主任といった教育課程の編成、実施の中軸をなす立場にとって、参考となる内容が数多く含まれていた。今後も、自校の教育課程改善に資するように教育課程部会の内容を検討していく。